

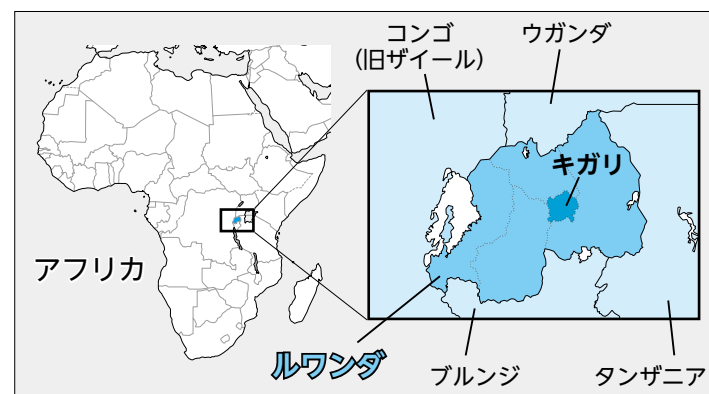
安代りんどう アフリカへ

ルワンダでリンドウの栽培研究を支援

市は、みずほ情報総研、岩手大学と共同で、アフリカ東部ルワンダでのリンドウ栽培の実現可能性の調査・研究を実施しています。2月2日から4日にかけては、田村正彦市長と市花き研究開発センターの日影孝志所長が現地を訪問。関係者と今後の展望などについて話し合いました。今号では、その内容の一部を紹介します。

安代りんどうのさらなる海外進出を図るため調査

市は、平成26年11月から、東アフリカ・ルワンダで、リンドウ栽培事業の実現可能性を調査しています。これまでも市では、南半球のニュージーランドやチリでのリンドウの契約栽培を行っており、市の特産品である「安代りんどう」の通年輸出を実現しています。この度の調査は、日本の農林水産業の海外進出を支援する事業「みずほグローバルアグライノベーション」を立ち上げたみずほ情報総研と岩手大学と共同で実施。市は、リンドウの種子・苗の提供、生産方法確立に向けての栽培



「安代りんどう」の栽培研究を行っているルワンダの国試験農場



キニギでのリンドウの生育状況

指導を担当しています。

調査・研究を進めながらルワンダの発展にも貢献

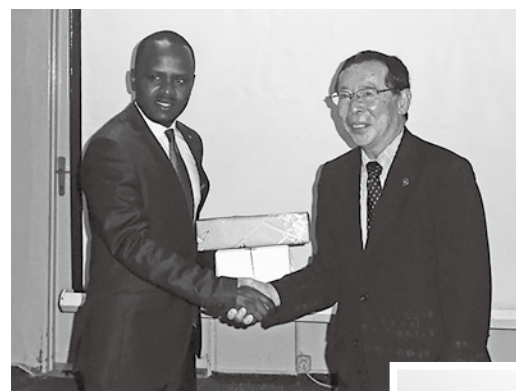
今年2月には、リンドウなど切り花の商用生産を目指す現地法人ブルーム・ヒルズ・ルワンダが設立。関係者やルワンダ政府が一堂に会して、今後の協力体制について話し合う場が設けられました。

2月3日には、同国農業担当大臣のトニー・ロベルト・ンサンガニラ氏と関係者が首都キガリで面談。ンサンガニラ大臣は「ルワンダでの花き産業はまだ発展途上。皆さんの取り組みをきっかけに、花き産業が発展することを願う」とあいさつ。田村市長は「調査・研究事業の関係者、そしてルワンダ政府の皆さまの参加に感謝する。今後、リンドウの栽培を通して、両国がさらなる発展を遂げることを望む」と、今後に期待を寄せました。

会議終了後、リンドウの栽培研究を行っている北部ムサンゼ市キニギの国試験農場を視察。現地の環境に適応したリンドウは、順調な生育を見せているものもあり、今後、栽培方法や品種が確立すれば、リンドウの海外展開の可能性が広がります。



ルワンダ首都キガリの様子



トニー・ロベルト・ンサンガニラ農業担当大臣(左)と田村市長が握手



リンドウの輪作を目的にヒマワリも栽培



農業試験場がある北部ムサンゼ市の行政長(右から2人目)と面談